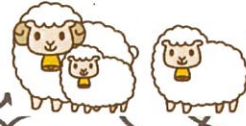


そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 3

2019年5月31日発行



5月の聖句 「子どもたちを私のところに來させなさい。」

(新約聖書・マルコによる福音書10章14節)

今回は特別、個人名を出ささせていただくことをお許しください。
この4月から聖十字っ子になった梅田めいちゃんを、みなさんにご紹介したいと思います。
だいじな友だちと楽しく過ごすために、子どもたちやおうちの方が多分出会ったことのない
この病気のことと、病気と闘っているめいちゃんのことを知ってほしいからです。
ぜひお読みになって、おうちでもわかりやすくお子様にお話しして下されば幸いです。

園長 菊地 和子

おかあさんから

芽生(めい)は28週700グラムで生まれ、
産後すぐに骨形成不全症と診断されました。

6万人にひとりと言われている先天性的な病気で、
コラーゲンの生成異常から骨が極端に弱いのが特徴です。

中でも重度のⅡ型で、すでにおなかの中で数十か所も骨折をし、手足の骨は曲がった状態
で生まれてきましたが、生存率は極めて少なく、1か月を迎えることはできない・・・1歳を
迎えることはできない・・・そう言われ続け、何度も危険な状態になりましたが、その都度医師
・看護師の皆さんの献身的な治療に救われてきました。

成長に伴い、骨折の頻度も少なくはなってきましたが、それでも2か月に一度ペースで骨
折し、体重は8キロで1歳児並み、骨の変形と筋力不足で歩くことはもとより車いすに長時
間座っていることもできない、そんな状態では到底幼稚園に通うことはできないと諦めてい
ましたが、聖十字幼稚園が引き受けていただけることとなり、年長からの1年だけの幼稚園
生となりました。

通い始めて数日は泣いていましたが、今では幼稚園に行くことが楽しみになり、「お友達が
お手伝いしてくれた」「お友達が絵本を読んでくれた」と毎日うれしそうに話してくれます。

この病気はちょっとしたことで骨折しますし、タイミングによっては特に外的要因がない
のに折れる時もあり、お友達や先生方には御迷惑やご心配をおかけすると思いますが、芽生
には骨折の痛み以上に皆さんからいただく暖かみを感じてほしいと思っていますので、でき
るだけ普通に接していただけるとありがたいです。

どうぞ、よろしく願いいたします。



あなたを知りたい

～きりん組・みずき先生から～

めいちゃんが登園すると、すぐめいちゃんの周りに集まるお友達がたくさんいます。4
月は初めてののお友達に緊張していためいちゃんも、今は笑顔で応えてくれています。は
じめはめいちゃんと優しくハイタッチすることでよろこんでいたみんなも、今はめいち
ゃんのために何ができるか考えを巡らせています。

荷物を持つ、一緒に絵本を読む、めいちゃんが来る時間にお迎えに行こうかと嬉しそうに
しているお友達もいます。

きりん組でも「めいちゃんのご飯は少なめで！」
などと率先して取りに来てくれています。

めいちゃんもお友達の名前を呼び、
あそびに誘う姿もあり、少しずつ
関わりが深くなってきています。

幼稚園でいろいろな経験を重ねて、
みんなで楽しんだり、喜び合ったりして
充実した時間を過ごしていきたいです。

～支援教諭・正美先生から～

「めいちゃんおはよう!」「めいちゃん遊ぼう!」朝、めいちゃんもお友達の
名前を覚え「〇〇くんおはよう!」「〇〇先生おはよう!」と元気に挨拶してく
れます。初めのころ、お友達から「なんで車いすに乗ってるの?」と聞かれたこ
とがあります。「めいちゃんの足の代わりになってくれて、行きたいところに行
けるんだよ」と言うとみんなわかってくれました。みんなめいちゃんの体の事を
分かってくれて、めいちゃんには乱暴に触ったりぶつかったりしてはいけな
いと、優しく手に触れたり頭をなでたり、誰がめいちゃんの隣に座るかを競ったり
しています。最近ではめいちゃんが「〇〇くんの隣がいい」と気持ちを表した
り、お友達の名前を大きい声で呼んだり、「めいもやりたい!」と積極的な姿が
見られるようになってきました。

めいちゃんが好きなこと・・・それは歌うことです。いつも楽しそうに小さな体
から大きな声を出して歌っています。時々めいちゃんが知らない歌だと私の方を
見て、目が合うと口に手を当ててニコッと笑います。そんな時はめいちゃんに少
し近づいて一緒に歌います。そうしているうちにめいちゃんもどんどん歌を覚え
て、今は歌のタペで歌う「虹」を覚えているところです。とってもいい表情で歌
っています。指先も器用で、中でも絵具を筆で塗るのが得意でとても上手です。

これからいろんなことに挑戦するのが楽しみです。

あなたを知りたい

昨年、自閉症に特化した特別支援クラスがある武蔵野第2幼稚園へ視察に行
ったとき、いちばん感心させられたのが「親の会」の活動でした。自閉症のお子さんを持つお父
さんお母さんが、「自閉症についての学習会」を年に数回開催すると、毎回ものすごくたくさんの
保護者の方が参加してくれるのです。「うちの子はこんな特徴があるんです」と聞いていくこ
とが、その子のためにも、周りの子やおうちの方のためにもHAPPYなことなんだと感じました。
ともに生きていくとき、その友だちのことをたくさん知りたいですね。